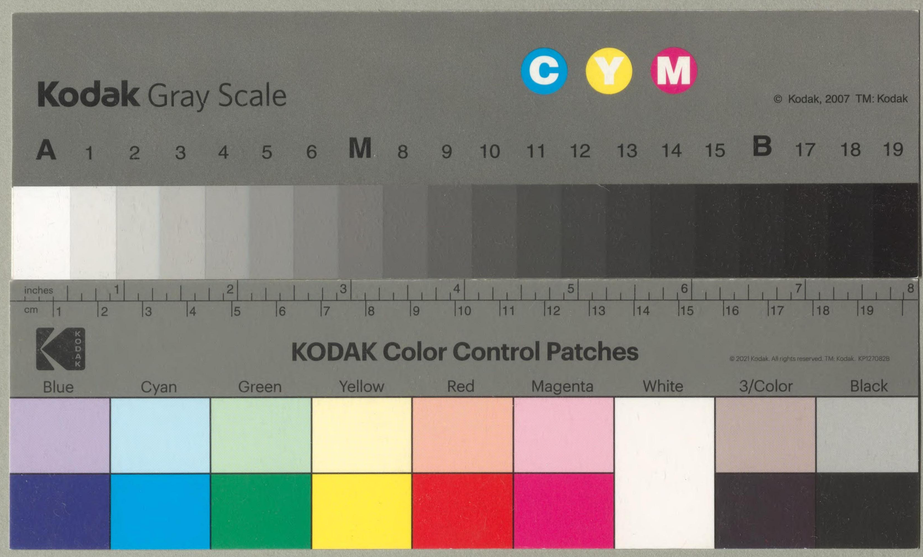
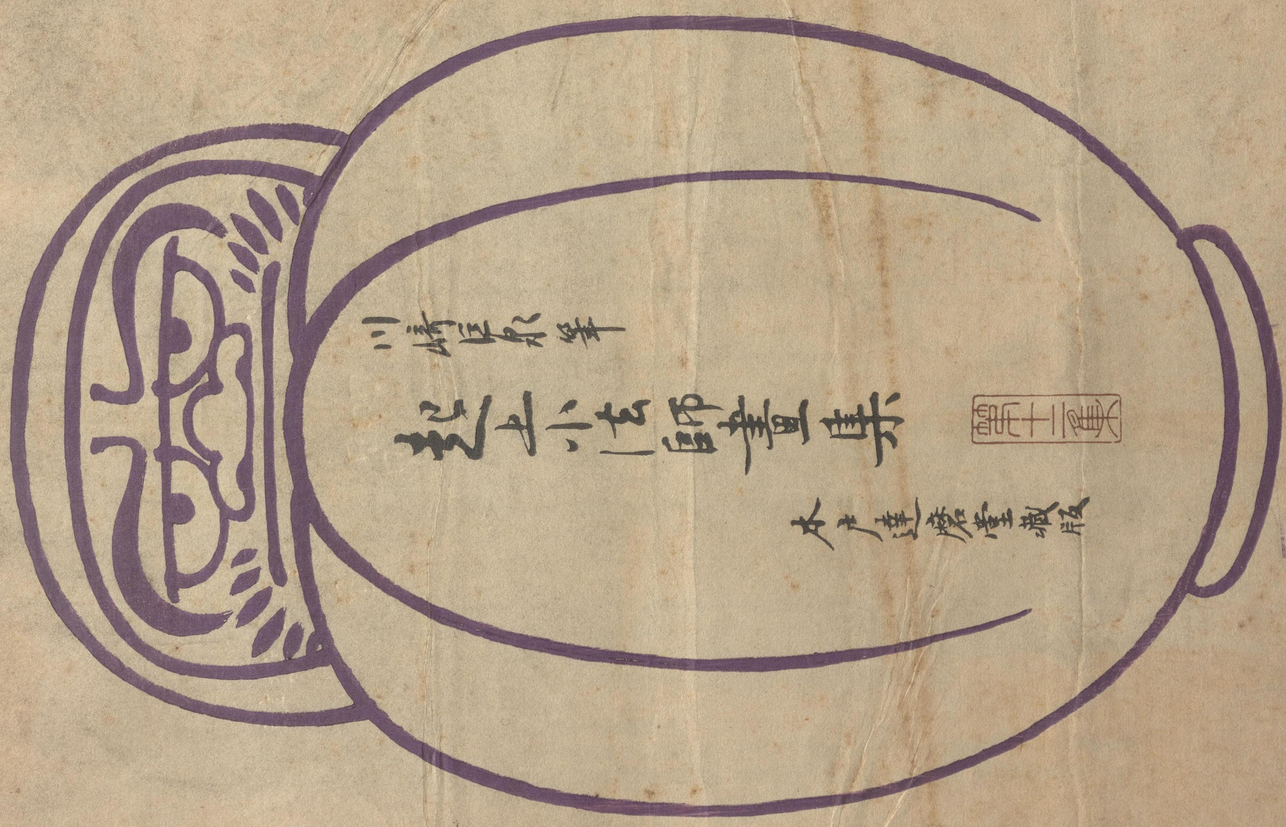




川崎巨泉筆

起上小法師畫集

本戸達磨堂藏版

第十二集

大正
14.5.14
内交

第三十四圖

(一)(二)(三)(四)　東京の達磨（張子製）　東京にては現今は淺草年の市及深川不動尊緣日に埼玉地方の目無達磨を賣り居れるのみにて張子は漸次衰滅に傾き、其製造業悉く近隣地方に移り、往時疱瘡除としての達磨の製造元が軒を並べし本所區表町も、今は唯達磨橫町なる名稱を存せるのみ。(一)は玩具として作りしものなるが今は無し。(二)は明治初年彫刻家竹內久一の作を原型となせる張子に縮緬を被せ、浮世繪畫家落合芳幾が一々之れに彩色を施したる女達磨なり。(三)は以前淺草年の市に出で、家內の人數だけ買はれしものなりと云ふ。(四)產地不明なり。製法は關東式なるも、鉢卷をなせるは該地方にては近來全く見ざる處なり。

(五)　川崎大師道の達磨（來藏製）　數年前迄有りしも今は見當らず。

(六)　神奈川の達磨（張子製）　今は無し。此圖に示せるは、(一)は實物より少し小く、他は實物大なり。

第三十五圖

(一)　琴平の達磨（木彫）　上より押し潰したるが如き形を示せるは特有なり。迷信的關係なし。

(二)　高松のタヌギ達磨（木製）　孝子に關する傳說より生れし玩具なり。

(三)　奈良の達磨（木形）　今は奈良人形の重要なる題材となれり。

(四)より(九)に至る　各種の玩具の達磨　(四)は布製にて、其上に塗料を施し、底の孔より膨らませ得る空氣達磨なり。(五)はゴム製なり。(六)は綿製にて、底にブリキ片を付けたる起上りなり。(七)は縫ぐるみにて、遊戲場に於ける空氣銃の標的となれるものなり、高知產なり。(八)は瓢箪達磨。(九)はセルロイドの達磨なり。形狀樣々あれど、茲にはキューピー君を煩はせり。

(十)　張子の原型（木製）　名古屋製鉢卷達磨の型なり。背面を縱走せる溝は、張子を型より切り取る際に生ずる小刀痕により穿たれしものなり。此圖に示せるはいづれも實物大なり。

第三十六圖

(一)(二)(三)(四)　支那直隸省の不倒翁（張子製）　支那にては不倒翁と稱す。其起原は不明なれど、恐らくは宋元時代ならん。酒席に用ひられしものなること「醉源一」に見えたり。今は其用途よりも、小兒の玩具として舊正月に需用多し。此不倒翁足利時代に日本へ渡來し、起上小法師と改名し、其後達磨に進化せしも、支那にては猶吳下の舊阿蒙なるのみ。唯其尻の偉大にして、起上りの力强盛なるは日本產に優れるも、其國力の之れと反比例をなせるは解し難し。(一)(二)は童子、(四)は翁なるが、(三)の隈取と共に其の形甚奇なり。

(五)　河南省の不倒翁（張子製）　桃子を擁せる猿猴なり。

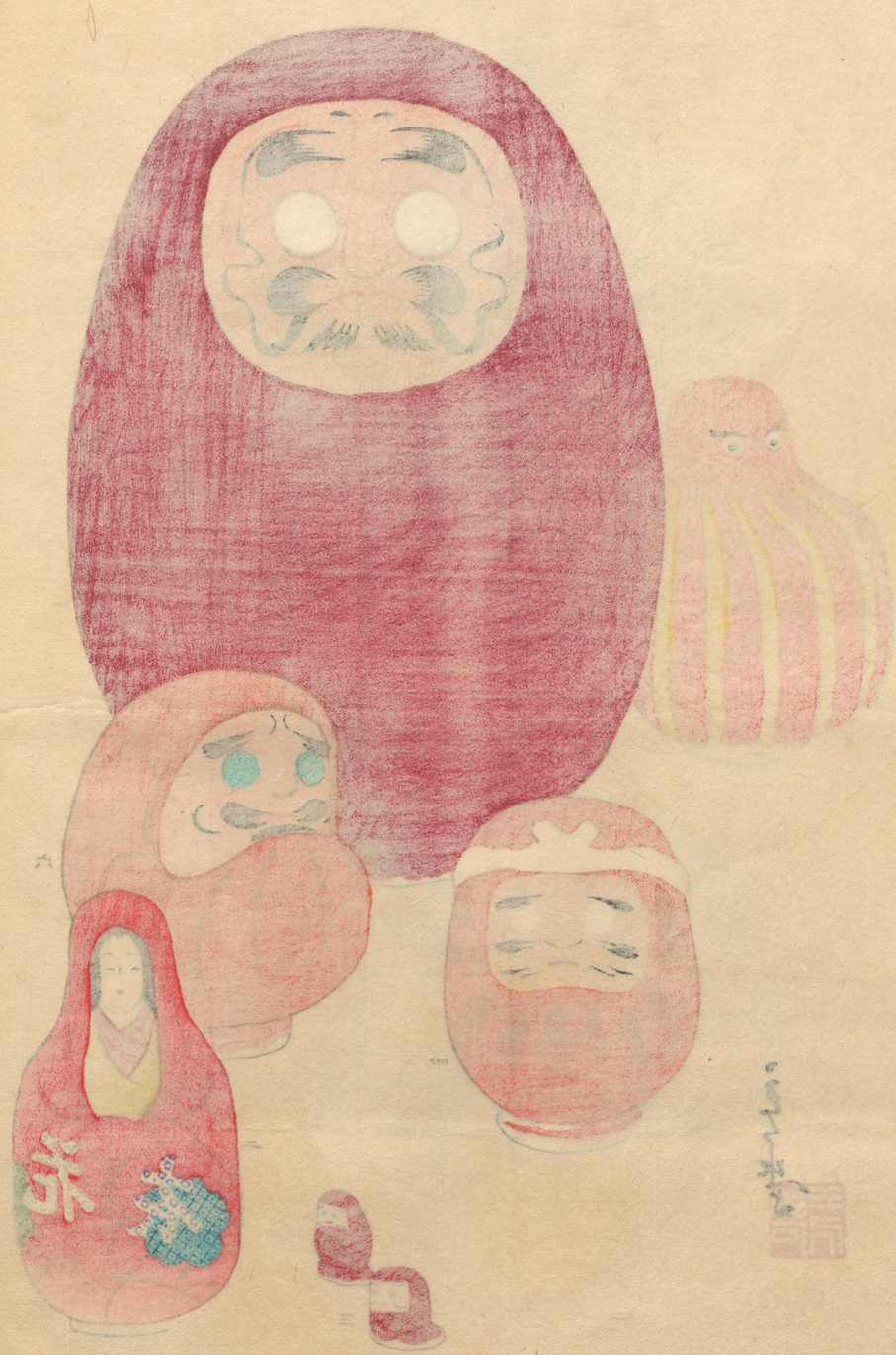
(六)　湖南省の不倒翁（張子製）　唐子なるが、製法極めて原始的なり。

(七)(八)(九)　江蘇省の不倒翁（張子製）　蘇州は古來其產地として名あり。(七)(八)は劇中の人物を摸せるもの。(九)は普通の支那人をモデルとし多少滑稽化せしものなり。紙片を切目に嵌みて扇に見立てたるも面白し。圖示中(一)は實物より稍小く、他は實物大なり。

大正十四年四月

木戸忠太郎記

第三十五圖



正誤

一、第一集第三圖解說第四行　多度津の達磨の下に「張子製」の三字を加ふること

二、第二集第六圖解說第四行　大阪又ばの四字を削除すること

三、第十一集第三十一圖解說第五行　金刀の下に比の字を加ふること

大正十四年五月一日印刷
大正十四年五月五日發行

畫者　川崎巨泉

京都市上京區土手町夷川上ル
末丸町二百八十四番地
編輯印刷兼發行者　木戸忠太郎

京都市上京區土手町夷川上ル
發行者　木戸忠太郎
電話上一一九九・振替口座穴振六八五九九

414
204